

開進第三中学校における生徒との意見交換会 令和4年10月21日実施

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
1	教育委員会はそのような仕事をしているのですか？職場はどこにあるのですか？	<p>教育委員会には、教育長と4人の教育委員がいて、月2回の定例会を行っています。また、他にも教育委員会を支える事務局の職員が約500人いて、子供たちのこれからのために働いています。仕事の中身は毎年の学校の予算を決めたり、学校の建て替えをしたり、といった学校教育に関することから幼稚園や保育園、学童クラブなども教育委員会の仕事です。本当に様々な仕事をしています。</p> <p>次に職場についてですが、練馬区役所の12階で教育委員会の会議を行っています。他にも、事務局の職員が仕事をしている場所は、10階、11階にもあります。機会があれば、ぜひ練馬区役所に足を運んでください。</p>
2	教育委員会の仕事の中で一番大変なことは何ですか？	<p>どれも大変な仕事です。月2回の定例会ごとに会議の資料がたくさん届きますので、全ての資料に目を通して、会議の準備をします。それから、教科書採択も大変な仕事です。教科書が改訂される時、教育委員会で、この教科はこの教科書でいきましょうということを決めますが、100冊以上ある教科書の中から選びますので、全て読まないといけません。そのほかには、教育委員会の仕事が上手いっているか点検・評価をしたりします。仕事はやはり責任があつてどれも大変です。</p> <p>一番大変なことの優劣はつけ難いのですが、何か新しいことを始めようというとき、それによって今度は不利益を被る人が出てきたり、問題が生じたりということがあります。1つのことに対していろいろな意見があるわけですが、そこを適切に対応するにはどうしたらいいかということが一番大変なことだと思います。例えば、今、先生方の働き方改革が話題になっていますけれども、先生方が働き過ぎだから少し休んでもらうというのは良いことですが、そうすると、みなさんと向き合う時間が減ってしまうということがあり、良い面と悪い面を調整しなければいけません。その中でどんなことをしていくか考えなくてはならないということが一番大変だと思っています。</p>
3	教育委員会に勤めていてやりがいを感じる時はどんな時ですか？	<p>みなさんの役に立っていると感じたときに、一番やりがいを感じています。例えば、こういうふうに学校を訪問し、みなさんの学習状況を見させていただくとか、それから今日の教育委員会の中で、様々な報告がありましたが、あれはやってよかったというふうに思うときが結構あります。</p> <p>私は保護者の代表で教育委員をしています。この職務に携わるまでは、教育委員会は学校の上にある大きな組織だと思っていました。でも、実際やってみると、同じ列の横にある組織です。みなさんが学校で勉強、部活、友人関係で悩んだりしたとき少しでも早く解決できるように、みなさんが学校生活を楽しく送れるように、日々、対応策を考えています。その対応策がみなさんにどこまで反映されているかはなかなか分かりませんが、こうやって学校を訪問し、明るく楽しく学校生活を送れている姿を見たとき、今、こうやってみなさんが真剣に姿勢よく、こちらを向いている姿、そういうのを見るのも本当にうれしいことです。直接、みなさんと意見交換ができていて、今、まさにこの場所でやりがいを感じています。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
4	このように中学校などを訪問する目的は何ですか？	<p>教育委員会は先ほど説明があったように、区役所12階の教育委員会室で、月2回の会議を行っています。会議の中で、学校の行事などについてのお話もありますが、なかなか理解しづらいところがあります。百聞は一見にしかずということわざのとおり、このように訪問して、実際に見ることが大切だと考えています。</p> <p>また、このように誰かが訪問することによって、みなさんが、少し緊張感を持って、人を迎えるための準備をしたり、気持ちを持ったりすることも大切だと思います。私たちも普段は私たちだけで会議をしていますが、こうやってみなさんからの質問を受けて、私たちも緊張感を持つことが出来て、よかったと思っています。今日のこの意見交換会を通して、教育委員会のことを身近に感じてもらえたらうれしいです。</p>
5	教育委員会が動くのはどのような問題が発生した時ですか？	<p>みなさんに関わる安全・安心な生活を脅かす問題というのは、学校でも家庭でも起こる可能性があります。学校では、校長先生はじめ多くの先生方が、家庭では保護者の方が問題に対応してくださっていると思いますが、時には学校や家庭だけでは対応しきれない問題があるかと思います。そういった大きな問題のときに、教育委員会が学校や家庭と連携して動きます。例えば、学校に不審者が入って来た場合に備えて、防犯カメラの設置や防犯グッズの購入、また防犯グッズの使い方の研修など、日頃から、教育委員会は学校と連携しています。それから、新型コロナウイルスの感染拡大防止についても同じです。区内にはたくさんの幼稚園、保育園、学校があります。それぞれがばらばらに感染対策をしていたのでは十分な効果が得られません。そのため、教育委員会で統一したルールを決めたり、また二酸化炭素チェッカーといった機器を一括購入して全校に配付し、感染拡大を防止するというのもやっています。給食についても、安全・安心の面から学校と教育委員会が連携しながらやっています。</p>
6	どうやったら教育委員会に入れるのですか？	<p>まず教育委員会の事務局の職員は、練馬区役所の職員で、教育委員会に配属されて働いています。練馬区の職員になるためには、特別区が合同で実施している職員採用試験に合格する必要があり、希望が通れば練馬区に配属されます。特別区職員採用試験は毎年実施しています。大学卒業程度が5月、高校卒業程度が9月に行われています。試験科目はいろいろありますが、学科試験と論文試験があります。学科試験は英・数・国・社・理、全て出題されますので、将来練馬区の職員や公務員になりたいという方は、得意不得意を持たないように全教科万遍なく学習してください。</p>
7	小中学生の教科書はなぜ税金によって支給されているのですか？	<p>憲法で「義務教育は、これを無償とする」と決まっていますが、その無償とは、授業料がかからないことを意味しています。そのため、昔はお金を払って教科書を買っていました。しかし、誰もが平等に学べるようにということで、たくさんの方が運動を起こした結果、今から約60年前に教科書も無償になりました。</p> <p>みなさんが使っている教科書を見てもらうと、「この教科書は、これからの日本を担うみなさんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう」と書いてあります。確かに粗末に使ってはいけませんが、できればぼろぼろになるまで一生懸命教科書を使って勉強してください。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
8	教育委員会では、どのような方々が働いているのですか？	<p>教育委員会では、本当に色々な人たちが働いています。まず教育長、教育委員、そして、事務的な仕事をする事務局の職員。また、業務がたくさんありますので、専門的な力が必要になってきます。例えば、図書館や学童クラブの職員のように専門的なやり取りを要する仕事については、民間の会社に委託をして仕事をしていただくということもあります。そういうたくさんの方たちが力を合わせて働いています。</p>
9	どのような基準で学校の教科書を決めているのですか？	<p>教科書を選ぶ基準はあらかじめ決めており、例えば、内容が的確であるか、生徒が主体的に学べる内容か、読みやすいか、練馬区の地域に合ったものかなどといった項目があります。これらの項目を基に、まず練馬区内の先生方、保護者の方々に教科書を調査してもらいます。そのご意見を教育委員会が受けて、私たちも145冊ある全ての教科書に目を通し、教科毎に1冊ずつ教科書を選びます。</p>